

山崎 敬*: 琉球のルリミノキ属

Takasi YAMAZAKI*: Note on *Lasianthus* in Ryukyu

ルリミノキ属は分類の困難な群で、文献でもさまざまに混乱している。琉球のものを中心として、いくつかのきがついた点をのべておきたい。台湾のものをもっと資料を集めて、華南、インドシナ、フィリッピンのもものと比較しなければ、はっきりしたことはわからないので、ここでは一部ふれるにとどめる。

琉球には初島住彦氏の沖繩植物目録 (1958) によると 5 種類知られている。タイワンルリミノキ (*L. cyanocarpus*)、オオバルリミノキ (*L. obliquinervis* var. *nigricarpus*)、マルバルリミノキ (*L. plagiophyllus*)、コバノケシンテンルリミノキ (*L. formosensis* var. *parvifolius*)、タシロルリミノキ (*L. tashiroi*)、ケハダルリミノキ (*L. tashiroi* var. *pubescens*) がそれである。*L. formosensis* とよばれているものはまれであるが、他の 4 種類は常緑広葉樹林の下にごく普通にみられる。

オオバルリミノキは初島氏がフィリッピンの *L. obliquinervis* と琉球・台湾の *L. nigricarpus* とを合一したさい、後者は葉柄が短いということで、一応変種として区別しているが、この性質は微妙であり、西表島あたりには、フィリッピンのもものと全く区別できないものもみられるので、変種としてわけなくてもよいと思う。これはしばしば中国大陸の *L. chinensis* と混同され、金平氏の台湾樹木誌 (1936) や李恵林氏の *Woody Fl. Taiwan* (1963) でも、*L. chinensis* としてあつかっているが、清水英夫氏 (台湾博物学会会報 34: 237, 1944) が明らかにしているように、オオバルリミノキは葉の側脈が顕著でやや平行し、がく片は短く果期にそりかえらず、花冠裂片は長卵形であるのに、*L. chinensis* は側脈はやや網目状で上の種類ほど平行せず、がく片はやや長く果期にそりかえり、花冠裂片は披針形でとがることで明らかに区別できる。

台湾で *L. odajimae* とよばれているものは *L. chinensis* と全く同じものである。*L. chinensis* が普通にある広東や広西で、清水氏は *L. odajimae* をみているということからもこれが同じものであることがうかがえる。*L. chinensis* と *L. obliquinervis* とは、前述のようにはっきりしたものであるにもかかわらず、不注意な文献では両者が混同されている。金平氏の 622 図は全形は *L. obliquinervis* のようであるが、花の拡大図は明らかに *L. chinensis* である。李氏の 345 図の *L. chinensis* は明らかに *L. obliquinervis* をかいたものである。劉棠瑞、台湾木本植物図誌 (1962) の 937 図と 938 図は正しくあつかわれている。

ルリミノキ (*L. japonicus*) は本州中部以南、四国、九州、台湾北部に分布し、広東

* 東京大学理学部植物学教室。Department of Botany, Faculty of Science, University of Tokyo, Hongo, Tokyo

の *L. lancilimbus* Merrill も葉が細長いと同じ種類である。又貴州、福建、広東、海南島に知られる、*L. hartii* Franchet も非常に似たものであるので、そのへんの検討が将来行なわれる必要がある。Rehder (Journ. Arn. Arb. 16: 325, 1935) は *L. japonicus* からは全体無毛であるということで区別しているけれど、中国大陸の標本には毛の多いものもあり、区別することは無理のように思われる。ルリミノキは本州南部、九州ではそうめずらしいものではないが、屋久島ではタシロルリミノキにおきかわって少なくなり、琉球では欠けていて、台湾に現われるという少し変わった分布をしているが、琉球でも将来発見される可能性はある。

ルリミノキとタシロルリミノキとはやや似ていて、時に混同されるが、ルリミノキでは葉の側脈は主脈から $70^{\circ}\sim 80^{\circ}$ のひろい開度でわかれ、大きな弧をえがいてまがる傾向があり、葉柄にはあらい斜上する毛がまばらにはえている。琉球に普通にあるタシロルリミノキでは、葉の側脈は $50^{\circ}\sim 60^{\circ}$ の比較的せまい開度で主脈からわかれ、側脈のまがりかたもいちじるしくなく。葉柄には普通短かい伏毛が密生している。またルリミノキは花が比較的大きく、5~6月頃の初夏に開くのに対し、タシロルリミノキでは花は小さく、花期は不規則であるが大体 11 月から 1 月にかけて開花するようである。

ケハダルリミノキについては初島氏と大井氏とで見解がこととなっている。これには別の種類が混同されていることや、新しい名がつけられていることでははなはだ混乱している。初島氏は *L. tashiroi* var. *pubescens* として、タシロルリミノキの変種としてあつかっている。現地を調べた所では、一地域の中に毛の少ないものから多いものまで色々あり、区別が困難であるから、ケハダルリミノキとタシロルリミノキとを区別すること自体、あまり意味はないようにみえる。大井氏はケハダルリミノキを *L. tawadae* Ohwi として、タシロルリミノキとは別の種類とした。この場合には後述するケシンテンルリミノキ (*L. curtisii*) とケハダルリミノキとが混同されている。ケシンテンルリミノキとタシロルリミノキとを比較すれば、別種とするのは当然である。しかし真のケハダルリミノキはタシロルリミノキの単に毛の多い型でしかなく、ケシンテンルリミノキと一緒にするのは適当でない。大井氏の *L. tawadae* は主としてケシンテンルリミノキにあたるものをさし、学名のもととなった多和田真淳氏の沖繩ヨナハ岳の標本は、あざらかにケシンテンルリミノキであり、しかも後に初島氏がコバノケンテンルリミノキ (*L. formosensis* var. *parvifolius* Hatusima) として新名をつけたものと全く同じものである。

以上のように *L. tawadae* はケシンテンルリミノキにあたるものをさしているが、学名の発表形式はケハダルリミノキ (*L. tashiroi* var. *pubescens* Matsum.) を種にあげたという形をとっているから、基準標本は松村氏の引用したものがなり、*L. tawadae* はケシンテンルリミノキの異名でなく、ケハダルリミノキの異名となる。

上記のことからあきらかなように琉球には今まで報告のなかったケシンテンルリミノ

キが存在する。これは従来琉球ではケハダグリミノキとしてあつかわれ、また一部はコバノケシンテンルリミノキとして *L. formosensis* の変種としてあつかわれたものである。ケハダグリミノキは茎や葉の裏面脈上に短い伏毛があり、しばしば斜上する剛毛をまじえ、がく裂片は筒部とほぼ同長かやや長い程度で、花筒の基部をわずかにおおう程度である。ケシンテンルリミノキは茎や葉の脈上にほぼ直角に立った長剛毛が密生している。がく裂片は細長く、筒部の 2 倍またはそれ以上となり、花冠筒部のなかばに達する。ケシンテンルリミノキ (*L. curtisii*) の正しい図は劉氏の台湾木本植物図誌の 932 図にのっている。学名としてマレーの *L. curtisii* をあてるのが正しいかどうかは検討の余地があるが、一応清水英夫氏の意見にしたがっておく。九州南部の屋久島から琉球、台湾、華南、インドシナ、マレー半島に分布することになる。

コバノケシンテンルリミノキは葉がやや小さいこと以外は、ケシンテンルリミノキとことならないので、変種とするほどのものでもないように思う。ただ、今のところ葉の小型のものは沖繩本島の与那覇岳の頂上近くの谷あいにはかみられない。葉が小さいにもかかわらず、りり色の大型の果実をつけ、美しいものである。

李恵林氏は *Woody Fl. Taiwan (1963)* でケシンテンルリミノキをマルバルリミノキ (*L. plagiophyllus*) にふくめてしまっているが、これほどはっきりした両種類間の区別ができないのでは、李氏の *Taxon* の認識の程度をうたがわせることになる。*Lasianthus* の他の種類に関しても、李氏のとりあつかいはでたらめというほかない。総合的な著述が出されることはよろこばしいことである。しかしきめのあら研究で発表されたのでは、後に無用の混乱を残すことになるので細心の注意がのぞまれる。

タシロルリミノキ (*L. tashiroi*) は変異の大きいもので、清水英夫氏は 3 つの型を区別している。琉球でも毛のはえかたに変化が多く、さきにものべたように、茎に伏毛の多いものをケハダグリミノキとして区別している。特に毛が多く、伏毛の他に多数の斜上毛をまじえるものがあり、松村氏は発表されなかったが、*L. formosensis* var. *lukiensis* Matsumura として区別している。清水氏もいうように、毛のないものから多いものまで中間形があってはっきりしないものである。これはルリミノキ (*L. japonicus*) とサツマルリミノキ (*L. japonicus* var. *satsumensis*) との関係と同じようである。ところが毛の多い型は台湾でシンテンルリミノキ (*L. formosensis*) とよばれているものと連絡してしまふ。後者は毛の多い他に葉がやや大きくがく片がやや細長い傾向があるが、タシロルリミノキのなかにもがく片の短いものや長いものなど変化があり、両者の間に、葉の形、がくの形、花冠の形などに、特にきわだった区別はみいだせない。結局、毛の少ないものがタシロルリミノキ、伏毛の多いものがケハダグリミノキ、斜上毛をまじえた特に毛の多いものがシンテンルリミノキということになり、がくや花冠の毛のはえかたもそれともなう。屋久島から琉球、台湾、海南島、インドシナ、フィリッピンに広く分布することになる。

タシロルリミノキはこのように広く分布することもかわらず、中国大陸に欠けているのは不思議に思われる。中国にある類似の種類は *L. fordii* Hance と *L. trichophlebus* Hemsley である。最近、富樫誠、村田源氏が香港から *L. fordii* の花のついたよい標本を採集してこられた。タシロルリノキと比較すると葉がやや厚いという以外特に差違はみいだせない。花も冬開く点で同じである。両者は同一種類とみなさるべきものと思われる。*L. fordii* と *L. trichophlebus* とは毛のはえかたがことなるだけで、*L. tashiroi* 内にみられた変化がここでもみられるようである。*L. fordii* が記載された広東の羅浮山から、同じく *L. trichophlebus* が記載されている。同じ場所に別の種類があっても不思議ではないが、両者が非常に近縁であることからすると、同一地域で毛のはえかたに色々な変化があるのでないかと思わせる。これもまた *L. tashiroi* と合一させるべきもののようである。

毛のはえかたであまりこまかく区別しても無意味なので、毛の少ないものと、あるいは毛のはえるものと 2 つ位に区別しておけばよいであろう。学名としては *L. fordii* が最も早いので、タシロルリミノキにはこれがあてられる。剛毛の比較的少ないケハダルリミノキ (*L. tashiroi* var. *pubescens*) は剛毛の比較的多いシンテンルリミノキ (*L. formosensis*) と合一して var. *pubescens* を使えばよい。

以上のように琉球のルリミノキ属を整理すると次のような種類と変種が認められる。

1. タイワンルリミノキ (*L. cyanocarpus*)
2. オオバルリミノキ (*L. obliquinervis*)
3. マルバルリミノキ (*L. plagiophyllus*)
4. ケシンテンルリミノキ (*L. curtisii*)
5. タシロルリミノキ (*L. fordii*)
6. ケハダルリミノキ (*L. fordii* var. *pubescens*)

琉球のルリミノキ属には現在のところ上の 5 種 1 変種が認められるが、これで問題がかたづいたわけではない。前述したようにルリミノキが発見さる可能性があるし、ケハダルリミノキはタシロルリミノキにくらべると花や葉がやや大きく、花期も 2~3 月早いのではないかと見られる点もあるので、タシロルリミノキとの関係は現地での詳細な研究を必要とする。

***Lasianthus obliquinervis* Merrill** in Philip. Journ. Sci. **1** suppl.: 136 (1907)
—*Lasianthus nigricarpus* Masamune in Trans. Nat. Hist. Soc. Formos. **22**: 222 (1932) nom. nud.; Simizu in Trans. Nat. Hist. Soc. Formos. **34**: 240 (1944)—*Lasianthus chinensis* (non Benth.) Maxim. in Bull. Acad. Sci. St.-Pét. **29**: 173 (1883); Kanehira, Formos. Tree rev. ed. p. 669 fig. 622 A (1936); H.L.Li, Woody Fl. Taiwan p. 855 fig. 345 (1963) pro parte—*Lasianthus obliquinervis* Merr. var. *nigricarpus* (Masam.) Hatusima in Sci. Bull. Agric. Home Econom. Univ. Ryu-

kyus **3**: 23 (1956); T.S.Liu, Ill. Nat. Introd. Lign. Pl. Taiwan p. 1118 fig. 937 (1962).

Distr. Ryukyu, Formosa and Philippines.

Lasianthus chinensis Benth., Fl. Hongk. p. 160 (1861); H.L.Li l.c. p. 855 (1963) pro parte—*Mephitidia odajimae* Masamune in Trans Nat. Hist. Soc. Formos. **24**: 211 (1934)—*Lasianthus odajimae* (Masam.) Masamune l.c. **28**: 45 (1938); Simizu, l.c. p. 238 (1944); T.S.Liu, l.c. p. 1119 fig. 938 (1962)—*Lasianthus chinensis* Benth. var. *odajimae* (Masam.) Kanehira, l.c. p. 669 fig. 622 B et C (1963).

Distr. Formosa, southern China and Indo-China.

Lasianthus curtisii King et Gamble in Journ. Asi. Soc. Bengal **73**: 128 (1904); Ridley, Fl. Malay Peninsula **2**: 161 (1923); Simizu, l.c. **34**: 300 (1944); T.S.Liu, l.c. p. 113 fig. 932 (1962)—*Lasianthus formosensis* Matsum. var. *hirsutus* Matsumura in Bot. Mag. Tokyo **15**: 17 (1901)—*Lasianthus plagiophyllus* Hance sensu H.L.Li, l.c. p. 857 (1963) pro parte.—*Lasianthus formosensis* Matsum. var. *parvifolius* Hatusima, l.c. p. 23 (1956).

Distr. Kyusyu (Ins. Yaku), Ryukyu, Formosa, southern China, Indo-China and Malaya.

Lasianthus fordii Hance in Journ. Bot. 1885, p. 324 (1885); Hemsley, Index Fl. Sinensis **1**: 388 (1888)—*Lasianthus tashiroi* Matsumura in Bot. Mag. Tokyo **15**: 37 (Feb. 1901); Merrill in Philipp. Pl. **3**: 567 (1923); Kanehira, l.c. p. 671 (1936); Simizu, l.c. p. 301 (1944); Hara, Enum. Pl. Jap. **2**: 21 (1948); Ohwi, l.c. p. 1085 (1952); T.S.Liu, l.c. p. 1121 fig. 940 (1962); H.L.Li, l.c. p. 855 (1963) pro parte excl. syn.—*Mephitidia tashiroi* (Matsum.) Nakai var. *kotoensis* Nakai ex S. Sasaki, List. Pl. Formosa, p. 382 (1928) nom. nud.

Distr. Kyusyu (Ins. Yaku), Ryukyu, Formosa, southern China and Philippines.

var. **pubescens** (Matsumura) Yamazaki comb. nov.—*Lasianthus tashiroi* Matsum. var. *pubescens* Matsumura, l.c. p. 37 (1901)—*Lasianthus trichophlebus* Hemsley, l.c. p. 388 (1888)—*Lasianthus formosensis* Matsumura, l.c. p. 17 (Jan. 1901); Kanehira, l.c. p. 670 (1936) pro parte, excl. syn.; Simizu, l.c. p. 300 (1944); T.S. Liu, l.c. p. 1115 fig. 934 (1962) excl. syn.; H.L. Li, l.c. p. 857 (1963) pro parte, excl. syn.—*Lasianthus formosensis* Matsum. var. *lukiuiensis* Matsumura ex Sakaguchi, Gen. Ind. Fl. Okinawa, p. 11 (1924) nom. nud.—*Lasianthus towadae* Ohwi in Act. Phyt. Geobot. **10**: 137 (1941); Fl. Jap. p. 1085 (1953).

Distr. Ryukyu, Formosa, southern China and Indo-China.